

経営比較分析表（平成28年度決算）

北海道足寄町 国保病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	50床以上~100床未満	非設置
経営形態	診療科数	DP対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	9	-	ド透訓	救
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
7,139	5,102	第1種該当	13:1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

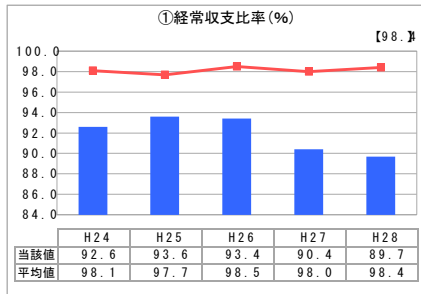
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
60	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	60
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
60	-	60

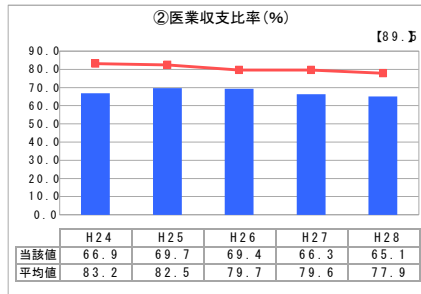
グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 平成28年度全国平均

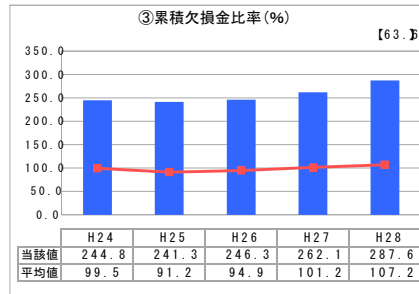
1. 経営の健全性・効率性



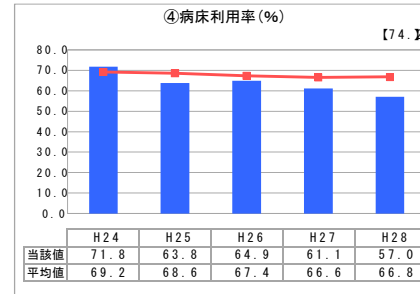
「経常損益」



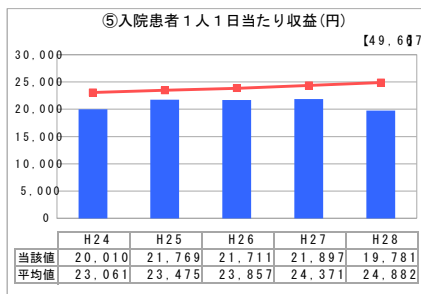
「医業損益」



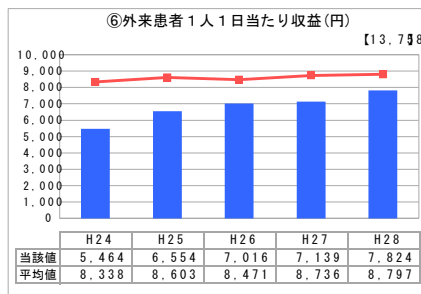
「累積欠損」



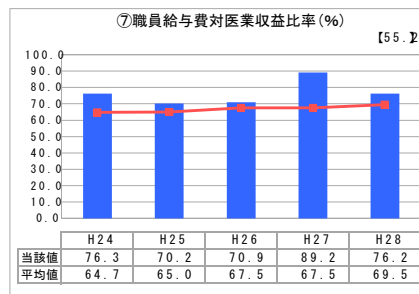
「施設の効率性」



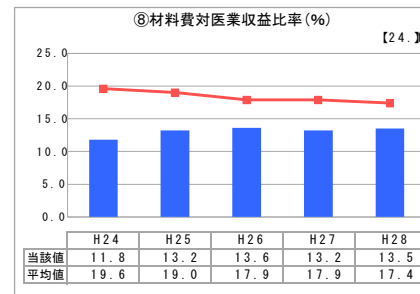
「収益の効率性①」



「収益の効率性②」

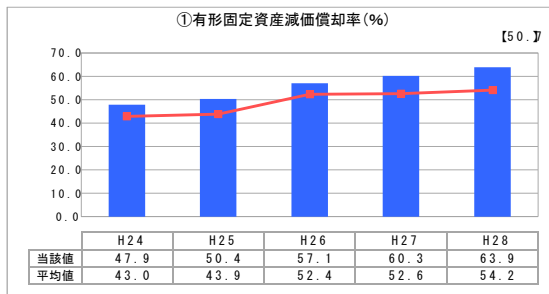


「費用の効率性①」

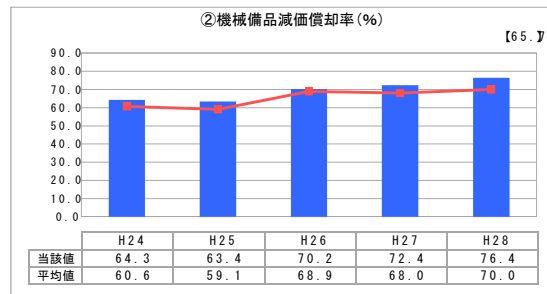


「費用の効率性②」

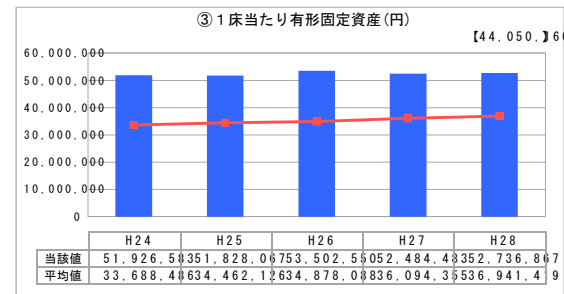
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「機械備品の減価償却の状況」



「建設投資の状況」

I 地域において担っている役割

足寄町は典型的な中山間地域で、少子高齢化により人口は減少中。高齢化率は38.8%であり、年々上昇している。
町内唯一の一般病床を持ち、また救急告示病院として不採算部門医療を提供している。産業医、学校医等、地域に不可欠な業務も実施し、町の医療の中心として機能している。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率・医業収支比率共に平均値を大きく下回っている。原因は救急・不採算部門を運営しているが、収益が不足しており、自治体からの繰入金では不足していることによる。単年度収支は毎年度赤字となっており、累積欠損比率も上昇している。
病床利用率は、医療連携室による都市部病院との入退院調整を実施しているもの、人口減少や、町内福祉施設増加による社会的入院の減少等により低下を続けている。

一人当たり収益については、入院患者の多くが高齢者で、手術等実施後転院、回復期の場合が多いことが平均値を下回る原因となっている。外来患者についてはH22から実施している透析が収益単価を押し上げている。
職員給与費は年度によってばらつきがあるもの、おおむね平均値。材料費については患者の多くが回復期、慢性期であり、診療材料の支出が少ないため平均値を大きく下回っている。

2. 老朽化の状況について

平成12年に全面改築して15年が経過し、機械設備が償却を終えている。器械備品についても旧施設から引き継いでいるものが多くあり、その大半が更新が必要なものとなっている。施設、備品ともに町が策定する総合計画において中長期的に改修、更新を計画しているが、収支状況を鑑みながら必要最低限の計上とせざるを得なくなっている。

全体総括

へき地における救急医療という不採算部門を運営することにより収支比率が低水準にあることを鑑みても、近年の患者数の減少による収益の低下、それに対して費用部門の高止まりによる収支悪化は否めない。北海道地域医療構想やH29.13策定された新改革プランに基づき、医師等の医療従事者安定確保、町内病床の機能分化、急性期病院との連携、入院調整による入院患者数の確保、ニーズにあわせた専門外来の開設を進めなければならない。また、費用部門においては必要経費の見直し、償却資産の計画的な整備更新を進め、収支比率の改善を目指さなければならない。

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。